

15. 東アジアの域内貿易 ～ 東アジアの貿易動向に係る調査研究

東アジア全域にわたって、自由貿易協定（F T A）の締結にむけた動きが活発である。例えば、日本は 2002 年 1 月に「日本・シンガポール新時代経済連携協定」を締結した。中国は、2001 年 11 月に A S E A N との間で 10 年以内に F T A 締結することで合意した。韓国は、日本、メキシコなどとの F T A 締結にむけての研究をすすめるなど。

こうした東アジアの貿易をめぐる諸事情をふまえ、東アジア貿易の動向を各国統計をもとに、主要な財について統計的に把握できることを主眼においてとりまとめた。報告書は次の 2 項から構成している。

1. 東アジアの域内貿易の現状
2. 資料編

1 の域内貿易の現状は、東アジアの貿易が I T 関連製品を核にして発展していること、中間財でより強い域内金密度であること、最終製品の域内需要拡大が求められていることなどを指摘した。

2 の資料編は、東アジア域内を中心とする貿易マトリックスを収録した。

- 1) 総額の他に、I T 関連財 15 品目、機械機器 8 品目、化学品 4 品目、食料品 2 品目など合計で 47 品目を取りあげた。
- 2) 各財について、1999 年から 2001 年までの 3 時点の表を作成した。
- 3) 価額のマトリックスに加え、輸出シェア・マトリックス、輸入シェア・マトリックスの表を作成した。

なお、本調査の元になったのは主要 41 カ国を対象に作成した「I T I 財別貿易マトリックス ～平成 14 年度世界貿易動向分析調査～」に貿易マトリックスの作成方法を紹介している。（本資料 No.19 参照）